

# センター便り



看護部長より

## 新たな職員を迎える私たちの力(看護) ～優しさの意味～

副院長・看護部長 もりわき とし  
森脇 登志

浅香山病院が創立100年という大きな節目を迎える中で、昨年4月から副院長兼看護部長という大役を拝命致しました。看護部のトップマネージャーとしての重責、看護師の視点から病院経営を考えていくために経営戦略のスキルやマネジメント力が求められていることを今も痛感し続けています。

一方で、COVID-19が世界中で猛威を振るう中、当院も例外でなく感染拡大防止に向けた対策に日々追われ、見通しの立たない不安と疲弊し続けていく職員の姿に、「どうにかしないといけない」と焦りばかりが膨らみ、申し訳なさや情けなさで自分自身が押しつぶされそうになったことが何度もありました。そのような時に、現場で毎日奮闘している師長たちの語る想いの中に、患者様やご家族様を大切にしたい決して揺るがない気持ちと実現するために創意工夫する看護を考えている姿と決意に触れる機会が度々あり、大きな勇気をもらいました。

今、私たちにできる最善を常に追求し、多職種間で互いの価値観を認め合い、組織一丸となり現場の声に耳を傾け労働環境を整えることを最優先と考えた1年でした。私の信念は「人は心で動く」です。今までも互いに育み・気遣い・気配りすることで、苦難を共に乗り越えてきました。それぞれの部署においてCOVID-19に翻弄された3年間は、言葉にできないほどの苦労があったと思いますが、管理者の力が試され大きな力を発揮し、滞りなく看護を実践し続けてくれたことに感謝しかありません。

ここで私の話になりますが、1984年に入職しあつという間に38年という歳月が流れていました。入職時は20歳で世間の荒波にももまれていない少女(?)でしたが、職員の方々や患者様に大切にさせていただいたことで今まで働き続けられたと実感しています。

看護を行う中で患者様それぞれの人生の節目に携わり、感情が大きく揺さぶられる体験もしてきました。真剣に向き合うことで、患者様の心に触れる瞬間や共に泣き喜び、人生の歩調に合わせることができたと実感した時には、言葉では表現できないほどのうれしさを感じることができました。また患者様の願いがかなった時の歓喜は、今でも忘れることのできない経験です。しかし、楽しいことやうれしい事ばかりではなく、長い看護師人生で多くの反省と心が折れそうな経

験もしてきました。それは、今でもふと思い出すことでもあります。今の私があるのは、苦境や苦難に立たされた時にあきらめず真剣に向き合い、患者様を支え続けることを一番に考えるために、感情の振り返り整理をチームでリフレーミングしてきたからだと考えます。

そして、浅香山病院が掲げる信念の「人々のために地域のために 社会のために 健康と幸せを追求し信頼される病院を目指します」が息づいていることを実感しやりがいを感じ、働いている誇りと愛が背中を後押ししてくれていました。きっと、私のように浅香山病院を誇りに思い、好きだと感じて働き続けている職員が沢山いるはずで、だからこそ、ぬくもりのある優しい環境・人が自慢で、人を大切にする組織風土が根付いているのだと改めて感じています。

現在の看護部理念は2009年に当時の役職全員で考えたものです。「個を尊重する温かな心でセルフケアを支援します」看護は治療者でありながら、同時に生活の支援者です。私たちの心は、「生活者」としての患者様・ご家族様に向け、互いにこの地域、この社会に暮らす「人間同士である」という、平等な関係性が基盤です。

患者様が望まれる「生活の質＝QOLの向上」を支援するため、知識と技術を提供することに惜しみなく力を注ぐ努力をします。それぞれが望む結果に至った時こそ看護の喜びにもつながります。この理念の意味を新たな職員の皆様にも学んでいただくために、教育体制を常に整備しています。

プロフェッショナルとしての責任感を学び、最善のケアが提供できるように技術を磨き、個を尊重する温かな心を持ち続けるために倫理的感性を育むことを大切にしています。自立した看護師を目指すためにクリニカルラダーに継続教育も導入し、サポート体制も構築しています。

働きやすい働き続けられる職場環境を作っていくことは私の使命です。専門性を高く持ち、知識技術を兼ね備え、自信を持つことができる人材育成は、患者様の笑顔のために、患者様に選んでもらえる病院をつくっていくために不可欠です。看護部は、職員が常に前を向いて進んでいき、笑顔で患者様を支えていける職員を育ててきました。そしてこれからも育て続けたいです！

創立100年という歴史を越え、看護部の功績・実績を、新たに見つめなおし原点回帰し、看護の意味を見つめなおし、大切にしてきた組織風土を器に、この激動の時代に打ち勝つための、組織体制を整えていきたいと思っていますので、これからもご支援、

ご協力をよろしくお願い致します。

今年度、新たな仲間になってくださる方に安心して従事してもらえらる組織・看護部であることを約束し、共に働く仲間を迎えられる喜びをお伝えします。



## 臨床研究と論文作成の進め方

透析臨床工学室 室長 かみの たくや 神野 卓也

2022年7月に浅香山病院医学雑誌1号が創刊された。これを機に初めて研究と論文作成にチャレンジしようと考えている方ではないか。しかし私自身がそうであったように、何から手を付けたらよいか途方にくれる方がいるかもしれない。私はこれまで7篇の論文を発表した。この経験をもとに、後輩にコツを紹介するように「センター便り」編集部より依頼された。

### 研究のきっかけは憧れ

「きっかけ」は、臨床工学技士の諸先輩方が血液浄化療法に関わる専門職として発展的な取り組みを行い、医学会や講演の場で医師と議論を交わしている姿をみて「自分も仕事を極めてみたい」と憧れを抱いたことである。このとき私は30歳であった。憧れに道を付けてくださったのは鶴崎透析センター長であった。研究に対し全くの初心者である私に対し、多くの助言やバックアップをしてくださり、チャレンジできる環境を作ってくださいました。田原院長からは、倫理委員会の存在と意義、そして臨床研究を行ううえで医療者として大切なことを説いて頂いたことが、今でも私の礎となっている。それから大規模な研究はできないが、目の前の数例の患者に対しての小規模な臨床研究ならできると考えて開始した。研究計画を立てるのに手間取ったが、倫理委員会で承認を受け開始した。

### 会議録ではなく論文として残したい

実際研究を始めると計画の不備に何度も直面したが、何とかデータ収集を終えると、解析を行い、結論を導き学会発表となる。何度か学会発表を続けているうちに、学会誌の抄録集の数100文字の「会議録」ではなく論文として、発信したいという強い思いが湧いてきた。現場の経験から育てた臨床疑問への私の研究には、論文として残す価値があるはずだという強い思いだった。

### 論文を書くためのコツは先行論文、指導者、職場の支え

論文執筆のため一つ目の重要なことは、過去の論文を参考にすることである。この作業は研究計画を作成する段階から始まるが、自分の研究分野に関連する論文をより多く読むことで、論文の目的、意義そして構成が明確になってくる。

インターネットは情報の宝庫であり、関連する論文の一部は無料で手にすることができる。私が文献を検索する際、和文であればメディカル・オンラインやJ-Stage、英文検索はPub Medを利用している。以前、英文を読む際には医学用語辞典と英和辞典を手元に1つの論文に対し相当な時間をかけて翻訳していた。しかし今では翻訳ソフトも無料で利用できるため、それに要する時間と労力が大幅に軽減した。特にDeepLは医学用語に対する翻訳精度が高くお勧めしたい。関連する論文をひたすら読み込み、自身の研究結果と照らし合わせ、さらに物事を深く考えることで結論を導き出すことができる。

二つ目はサポートしてくれる人がいるかということである。論文を書いているうちに、「どうしても書けずに行き詰まってしまう」という場面に遭遇する。壁にぶち当たった時は「相談できる誰かの存在」が大切となる。私は以前にいくつかの研究結果を論文にしようとして試みたが、その困難さに辟易してしまい、それを長年放置していた。岸本武利先生との出会いが、大きな転機となった。研究データを自分なりにまとめ「論文」みたいなものを作成し、先生に見て頂いたことがきっかけであった。「よく書き上げたなあ」と褒めてくださったが、数枚の原稿用紙が先生の赤のボールペンで真っ赤になった。それからは論文の構成や文法、考え方など本当に多くのことを教わった。初投稿で論文が「受理」されることは、まれであるとは聞かすが、数か月間、査読担当の先生方とのやり取りが行われた。厳しい意見や指摘内容に対し解決法が見出せず、諦めそうになったこともあったが、その度に支えてくださった。ようやく「受理」の結果通達があったときは、本当に嬉しかった。先生の温かく、熱心なご指導から、人を育てるために大切なことを学んだ。岸本先生から学んだことは、私個人の財産とするのではなく、当院で学術的なチャレンジを試みる意欲的な浅香山病院の医療スタッフに継いでいきたい。

三つ目の課題は職場での臨床研究へ取り組む環境づくりである。研究の遂行には文献に目を通し、計画を作成、データを集め解析し、その後論文にまとめるという、孤独なそして膨大な時間を要する。職場での普段の学習会での臨床疑問が臨床研究に発展し、研究の進捗を全員で支えていければ理想的である。

## 日々の臨床疑問を研究テーマに

研究と聞くと抵抗を感じる方がいるかもしれない。しかし自分が臨床現場で感じた発見や疑問が、研究の「きっかけ」になることがある。その教科書にも文献にも載っていない「答えのない発見」が大切だと感じる。それを様々な方向から根気強く追及したり、想像力を膨らませたりすることで、ひとつの答えが見つかるかもしれない。そして、その答えが、自分の偏った考えなのか否か確かめるために、学会発表で同じ疑問をもった方と意見を交わすことも重

要だと思う。そして、自信が持てたならぜひ論文に挑戦することを強くおすすめしたい。

研究と論文へのチャレンジは山登りに喩えられることがある。きちんとしたプロセスを進めば時間がかかっても、諦めなければいつか必ず辿り着くことができる。一つの山を乗り越えることができると、同程度のものなら次は自信を持って登れるようになる。そして登り終えた後、心の中で「二度とこんなことはしない」と誓うのだが、また挑戦したくなってしまう。

## 浅香山病院での臨床研修を終えて



はちたに なつこ  
蜂谷 奈都子  
(2021年度-基幹型初期研修)

浅香山病院で2年間の初期研修をした蜂谷です。浅香山での初期研修を振り返らせていただきます。入職したての頃は、国家試験の知識はなんとかあるものの、コロナ禍による実習の制限も相まってベッドサイドでの経験や臨床的な知識があまりない状態でした。

そんな中始まった研修でしたが、どの先生も基本的な質問であってもいつも丁寧に教えてくださりました。各科のカンファレンスでは担当している症例について先生方からアドバイスをいただき

すごく勉強になりました。手技がある科では手技があるたびに呼んでくださり、様々な手技を経験させていただいたことも良い経験になったと思っています。志望科の精神科では外来の初診や入院患者さんを担当しました。これからに役立つご指導をたくさんいただき、浅香山病院で専攻医研修もしたいという気持ちが固まりました。

また、コメディカルの方々もいつも本当に親切に接してくださり、浅香山病院のアットホームな雰囲気に助けられる場面が多々ありました。感謝しております。

最後になりましたが、ご指導くださった先生方、職員の皆様、2年間本当にありがとうございました。4月からも精神科の専攻医として勤務を続けます。今後ともよろしくお祈りします。



ほりい たかひろ  
堀井 崇博  
(2021年度-基幹型初期研修)

私は2021年から2年間初期研修医として勤務させていただきました。研修を始めるまでは不安も多くありましたが、いざ始めれば指導医の先生方の手厚い教導もあり、安心して勤務することができました。1年目の際は分からないことも多く、数多くの質問をさせていただきましたが、それでも嫌な顔一つせず丁寧に教えていただけました。2年目に

なってからは自主性を与えていただき、できることは自分の力で解決し、困ったことがあればサポートしていただける環境を作っていただき、さらに成長することができました。また、看護師や放射線技師、薬剤師などのコメディカルの方々も雰囲気が良く、協力しながら時にはご教授いただくこともあり、より良い医療を学ぶことができたことも私にとって良い経験になりました。素晴らしい医療を提供している浅香山病院で勤務できたことは私にとって誇りであり、指導してくださった多くの方々に改めてお礼申し上げます。今後はこの経験を糧に、研鑽を積み医療人として成長できるように精進して参ります。



はた なつみ  
畑 夏生  
(2022年度-協力型初期研修)

私は大阪公立大学のプログラムで、初期研修の1年目という、医者になって最初の1年をこの浅香山病院で過ごさせていただきました。主体的に働くことが求められ、責任も伴う医者という仕事の初めの一步に大きな期待もありましたが、それと同じくらいに不安もありました。しかし、指導医の先生方だけでなく、看護師、検査技師、事務、

全ての職種の方が本当に優しく、不安な気持ちを何度も皆さんに支えられて、日々研鑽を積むことができたと思えます。

入職したては分からないことも多くご迷惑をおかけいたしました。皆さんの日々のご指導のおかげで様々な手技や患者様との接し方に多くの学びがありました。これから、教えていただいたことを元に、より一層学びと実践を重ねていきたいと思えます。

ここで出会えた皆様とまたいつかどこかで一緒にお仕事をする機会があれば大変幸甚に存じます。大変お世話になり、ありがとうございました。

# 浅香山病院 学会・研究会発表等

(2022年10月～2022年12月実績)

## 学会・研究会

| 種類                        | 発表(演題)名                                  | 発表者名             | 所属                              | 会名  | 発表年月日          |
|---------------------------|--|------------------|---------------------------------|---|----------------|
| 学会・研究会発表                  | うつ病入院患者への排便ケアによる腸内細菌叢、うつ状態の変化:事例研究       | 村上 嶺、雷川 順子       | 看                               | 日本精神科看護協会大阪府支部「令和4年度看護研究発表会」                        | 2022/11/11     |
|                           | 長期入院患者への料理を用いた集団精神療法の効果看護師の介入と参加した患者の変化  | 田上 かおり、二宮 直子     | 看                               | 日本精神科看護協会大阪府支部「令和4年度看護研究発表会」                        | 2022/11/11     |
|                           | コロナ禍における園芸療法の実施場所に関する考察ー精神科デイケアにおける事例からー | 川村 明代 他          | デ                               | 人間・植物関係学会、日本園芸療法学会2022年度合同大会                        | 2022/11/13     |
|                           | 精神科救急入院料病棟において看護師が行う退院調整アクションリサーチ1事例の報告  | 島津 聖子、雷川 順子      | 看                               | 日本精神科看護協会「第29回日本精神科看護専門学術集会」                        | 2022/11/20     |
|                           | 認知症初期集中支援チームにおける精神科医のかかわり                | 繁信 和恵            | 精                               | 第24回近畿老年期認知症研究会                                     | 2022/12/10     |
| 講演・講師・座長                  | 手術を受ける患者・家族の理解とケア                        | 川崎 恵理子           | 看                               | 兵庫医科大学臨床教育統括センター認定看護師教育課程(手術看護分野)                   | 2022/10/6      |
|                           | 堺市認知症初期集中支援チームの役割                        | 釜江 和恵            | 精                               | DLB Forum2022 in 南大阪                                | 2022/10/15     |
|                           | 教育講演:多職種連携とチームマネジメント                     | 中原 宣子(座長)        | 透                               | 第25回日本腎不全看護学会                                       | 2022/10/16     |
|                           | 退院支援につながる!明日から使える患者中心のケアモデル              | 島津 聖子            | 看                               | 日本精神科看護協会大阪府支部「退院調整研修会 in Web」                      | 2022/10/22     |
|                           | OSCE(客観的臨床能力試験)                          | 榎本 孝典            | リ                               | 大阪リハビリテーション専門学校                                     | 2022/11/9      |
|                           | 認知症の付き合い方と具体的な対応について                     | 三好 豊子            | 看                               | 堺市社会福祉協議会「認知症サポーターステップアップ講座」                        | 2022/11/15     |
|                           | 認知症薬物療法                                  | 繁信 和恵(座長)        | 精                               | 第41回日本認知症学会学術集会/第37回日本老年精神医学会                       | 2022/11/25     |
|                           | 長期入院者の退院支援に取り組むにあたって必要な視点                | 島津 聖子            | 看                               | 医療法人河崎会水間病院「職員研修」                                   | 2022/12/1      |
|                           | 明日から使える園芸療法                              | 川村 明代            | デ                               | 奈良県作業療法学会主催「事業部研修会」                                 | 2022/12/4      |
|                           | 「再び生きる」ための園芸療法ーより意味深い作業療法を目指してー          | 川村 明代 他          | デ                               | 第36回大阪府作業療法学会                                       | 2022/12/10     |
|                           | 認知症4大疾患、せん妄における症状や対応方法等                  | 三好 豊子            | 看                               | 大阪府社会福祉事業団「堺市病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修・看護職員認知症対応力向上研修」 | 2022/12/14     |
|                           | 高齢者介護施設における新型コロナウイルス感染症対策                | 金崎 美奈子           | 感                               | 大阪介護老人保健施設協会主催「認知症に関する講演会」                          | 2022/12/15     |
|                           | 精神科病棟の機能と構造、隔離・拘束について                    | 高谷 衣美、小瀧 和人、林 柊馬 | 看                               | 学校法人西大和学園大和大学「精神看護学演習」                              | 2022/12/21     |
|                           | その他                                      | 「精神医学II」         | 正木 慶大                           | 精   | 森ノ宮医療大学 作業療法学科 |
| 「神経・生心理学」                 |  | 正木 慶大            | 精                               | 神戸女子大学 心理学部   | 11回            |
| 「精神医学I」                   |  | 正木 慶大            | 精                               | 大阪医専 作業療法学科   | 8回             |
| 「精神医学」                    |  | 嶋 健作             | 精                               | 四条暁学園大学リハビリテーション学部                                  | 7回             |
| 大阪府理学療法士会共催 臨床実習指導者講習会    |  | 加藤 航太(ファシリテーター)  | リ                               | 2022年度臨床実習指導者講習会(大和大学)                              | 2022/10/1.2    |
| 看護補助者体制整備に関する課題に対する対策案の作成 | 河田 津也                                    | 看                | 大阪府看護協会「看護補助者の活用推進のための看護管理者研修②」 | 2022/11/22  |                |

## 論文・著書

| 論文・著書名   | 著者(全員)   | 所属 | 誌名、巻：ページ、年  |
|--|--|----|---|
| Multiple comparison of different noninvasive brain stimulation and pharmacologic interventions in patients with methamphetamine use disorders: a network meta-analysis of randomized controlled trials | Wu MK, Satogami K, Liang CzB, Carvalho AF, Brunoni AR, Su K-P, Tu YK, Wu YC, Chen TY, Li DJ, Lin PY, Hsu CW, Chen YW, Suen MW, Zeng BY, Takahashi S, Tseng PT, Li CT | 精  | Psychiatry and Clinical Neuroscience 76(12):633-643, 2022.                                      |
| Structural connectivity between the hippocampus and cortical/subcortical area relates to cognitive impairment in schizophrenia but not in mood disorders   | Ikeda N, Yamada S, Yasuda K, Uenishi S, Tamaki A, Ishida T, Tabata M, Tsuji T, Kimoto S, Takahashi S   | 精  | Journal of Neuropsychology, online ahead of print. doi:10.1111/jnp.12298.                       |
| Computational modeling of electric fields for prefrontal tDCS across patients with schizophrenia and mood disorders  | Uenishi S, Tamaki A, Yamada S, Yasuda K, Ikeda N, Mizutani-Tiebel Y, Keeser D, Padberg F, Tsuji T, Kimoto S, Takahashi S   | 精  | Psychiatry Research: Neuroimaging, online ahead of print. doi:10.1016/j.pscychresn.2022.111547. |
| The Big Five personality traits and the fear of COVID-19 in predicting depression and anxiety among Japanese nurses caring for COVID-19 patients: A cross-sectional study in Wakayama prefecture.      | Odachi R, Takahashi S, Sugawara D, Tabata M, Kajiwara T, Hironishi M, Buyo M   | 精  | PLoS One 17(10):e0276803, 2022.   |
| Two cases of steroid dementia showing partial recovery during two-year follow-up   | Ikeda N, Yamada S, Yamamoto M, Tanaka K, Fujii T, Tsuji T, Kimoto S, Takahashi S   | 精  | Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports 1:e49, 2022.                                      |
| 認知症の臨床で知っておきたい制度・社会資源・連携機関   | 柏木 一恵、繁信 和恵  | 相精 | 精神科治療学 37(12):1383-1390, 2022   |
| ドライウエイトの変更が必要な患者への「とっておきの伝え方」  | 中原 宣子  | 透  | 透析ケア 28(11):76-79, 2022   |
| 高齢者・認知症患者の皮膚管理ー疥癬、褥瘡、おむつ着脱を中心にー  | 金崎 美奈子、山本 朝美、森本 亜希子  | 感看 | 感染対策ICTジャーナル 17(4):300-305, 2022  |
| 精神科領域におけるCVPPPトレーナーを活用した暴力対策   | 齋藤 雄一  | 看  | 病院安全教育 10(3):19-26, 2022  |

## 研修医による学会・研修会発表

| 発表(演題)名                   | 発表者名   | 会名                   | 発表年月日      |
|---------------------------|--------|----------------------|------------|
| 薬剤性QT延長症候群より多発性心室頻拍に至った一例 | 蜂谷 奈都子 | 第238回日本内科学会近畿地方会     | 2022/12/10 |
| 急速に進行した感染性心内膜炎の一例         | 堀井 崇博  | 第238回日本内科学会近畿地方会     | 2022/12/10 |
| 腎不全、洞機能不全をきたした双極性障害患者の一例  | 谷口 真美  | 第63回プライマリケア合同カンファレンス | 2022/12/15 |

所属:精(精神科)、透(人工透析センター)、看(看護部)、デ(デイケア室)、リ(リハビリテーション部)、感(感染管理室)、相(医療福祉相談室)